

2025年7月16日
自治体公衆衛生専門職向け
AMRパブリックセミナー
(日本医療政策機構)

東京都内保健所における AMR対策に向けた**既存事業の再設計**

東京都板橋区保健所長
長嶺路子

保健所におけるAMR対策について

○感染症対策担当

【感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律】

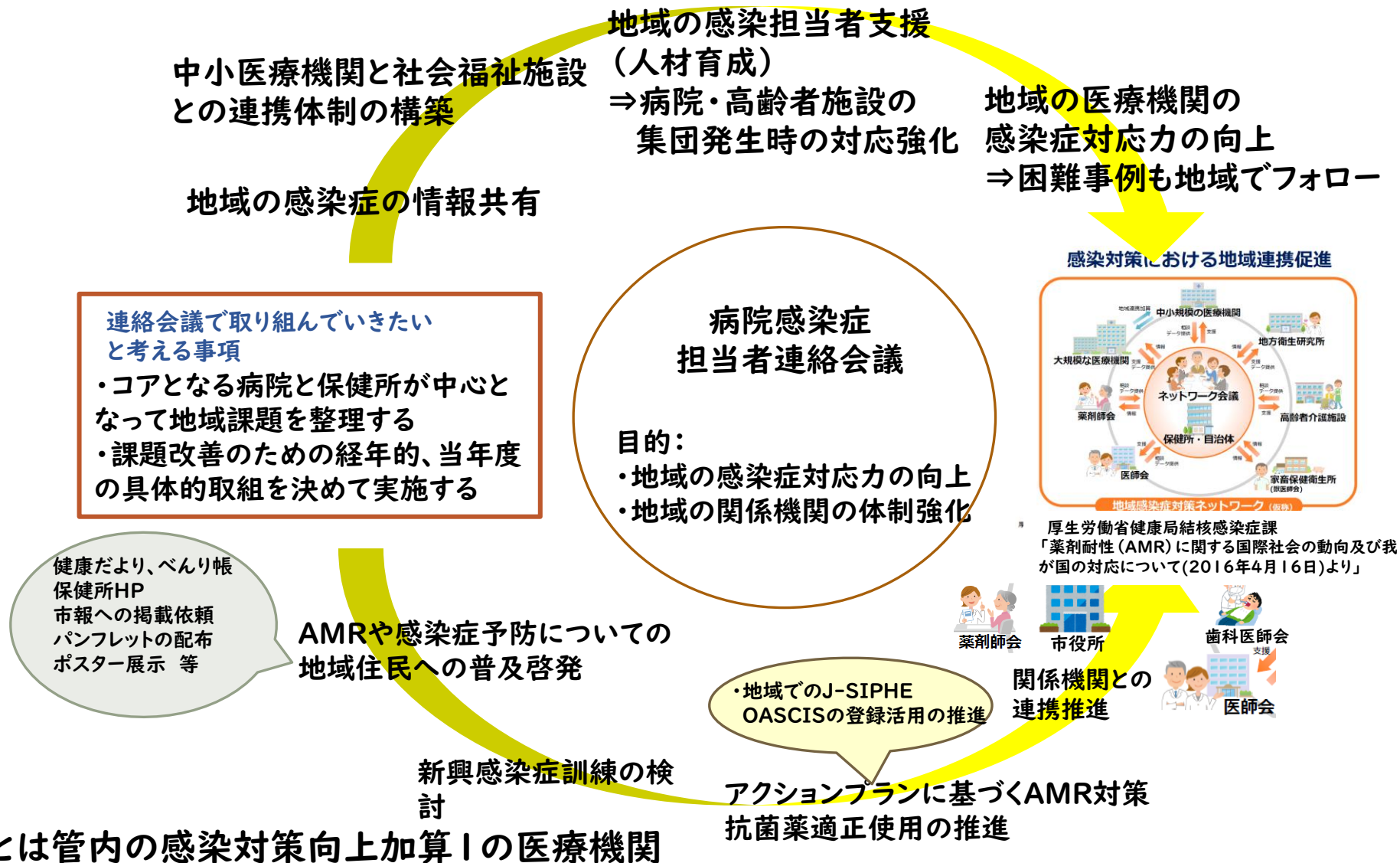
令和6年度診療報酬改定、介護報酬改定（感染対策向上加算等）

- ・感染対策向上加算Ⅰ会議の参加（管内3ブロック、年4回）
- ・病院感染症対策担当者連絡会議（保健所主催、年4回）
- ・中小病院感染症担当者会議（保健所主催、年1回）
- ・結核菌の薬剤耐性検査把握率 毎年ほぼ100%を維持
- ・薬剤耐性菌の発生届出時や相談時に、疫学調査を行い、感染源、感染経路探索を迅速に実施
- ・CRE（カルバペネム耐性腸内細菌科細菌）感染症対応に関して、国立感染症研究所とweb会議実施（R6.7月）



（R6.11月 展示）

病院感染症対策担当者連絡会議イメージ図



※病院とは管内の感染対策向上加算Ⅰの医療機関

「薬剤耐性 (AMR) 対策推進月間」について

令和6年11月 東京都多摩立川保健所ホームページ掲載

薬剤耐性 (AMR : Antimicrobial Resistance) とは、感染症の原因となる細菌に抗菌薬・抗生物質が効かなくなることです。

世界中で抗菌薬の効かない耐性菌が増加していることを踏まえ、国は毎年11月を「薬剤耐性 (AMR) 対策推進月間」と定めています。

抗菌薬を飲まなければならない病気になったら、医師から指示されたとおりにきちんと飲むことが、薬剤耐性菌を増やさないことにつながります。

人も動物も環境も健康であるように 抗菌薬は人のほかに、動物の医療や、農業・酪農などさまざまなところで使われています。

そのため薬剤耐性菌が食品や環境を通じて人にうつってくることもあります。

人だけでなく、動物や環境もみんなが健康でいられるよう、分野を越えた取組が行われています。



薬剤耐性(AMR)対策推進月間についての展示画像

参考資料: AMR臨床リファレンスセンターホームページ <https://amrcrc.ncgm.go.jp/>

保健所におけるAMR対策について

○薬事指導担当

【医薬品の適正使用】

- ・薬剤師による医薬品の服薬説明
(薬機法による薬剤師の説明義務)
- ・「薬育」の推進
(健康だより、健ちゃん通信、保健所ギャラリー、プロモーションスペースでの展示啓発、区民祭りなど)

展示テーマ 「薬育始めてみませんか？」

みなさんは、「薬育」という言葉を聞いたことはありますか？

「薬育」とは、子供のうちから薬の効果や副作用、正しい使い方などを学ぶことをいいます。

多摩立川保健所では、薬育活動の普及推進を目的として、薬育資材の展示やリーフレットの配布を行っています。

また、6月26日の国際麻薬乱用撲滅デーに先駆けて「薬物乱用防止」や春から初夏にかけて花が咲く「けし」についてもご案内しています。



<全体の写真>

◎保健所では「薬育」の推進を通して、住民へ啓発している

○食品衛生担当

【食品衛生法による規制（食品衛生法第13条）】

食品一般の成分規格

1. 食品は、抗生物質または化学的合成品たる抗菌性物質及び放射性物質を含有してはならない。ただし、抗生物質及び科学的合成品たる抗菌性物質について、次のいずれかに該当する場合にあっては、この限りではない。

(1) 当該物質が、食品衛生法第10条の規定により人の健康を損なうおそれのない場合として厚生労働大臣が定める添加物と同一である場合

(2) 当該物質について、5, 6, 7, 8又は9において成分規格が定められている場合

(3) 当該食品が、5, 6, 7, 8又は9において定める成分規格に適合する食品を原材料として製造され、又は加工されたものである場合（5, 6, 7, 8又は9において成分規格が定められていない抗生物質又は化学的合成品たる抗菌性物質を含有する場合を除く。）

◎食品の検査（自主検査、行政検査）により、適正使用を確認している

地域保健医療推進プラン・健康だより



【医薬品の適正使用】 【食品の安全確保】
【地域における薬剤耐性対策の推進】

11月は「薬剤耐性(AMR)対策推進月間」です！

薬剤耐性 (AMR) とは??

感染症の原因となる細菌に抗菌薬・抗生物質が効かなくなることです。

世界中で抗菌薬の効かない耐性菌が増加していることを踏まえ、国は毎年11月を「**薬剤耐性 (AMR) 対策推進月間**」と定めています！

クスリを正しくのむことが大切！

抗菌薬を飲まなければならない病気になったら、お医者さんから指示されたとおりにきちんと飲むことが、薬剤耐性菌を増やさないことにつながります。

人も動物も環境も健康であるように

抗菌薬は人のほかに動物の医療や、農業・酪農などさまざまなところで使われています。

そのため薬剤耐性菌が食品や環境を通じて人にうつってくることもあります。人だけでなく、動物や環境もみんなが健康でいられるよう、分野を越えた取組が行われています。



出典：国立国際医療研究センター病院
AMR 臨床リファレンスセンター



【ここまでの内容についてのお問合せ先】 保健対策課感染症対策担当

3

健康だより 2024 vol.2